

物語ナラティブにおけるタイ語の関係節の使用  
- 「thii 関係節」「sûŋ 関係節」「裸の関係節」各関係節の使われ方を中心に-

コーブルアン ワチャラチャイ

キーワード：タイ語、関係節、ナラティブ

### 要旨

本研究は、物語ナラティブにおいて、タイ語の関係節がどのように使用されているかを明らかにするため、タイ語の物語で使用された関係節を収集し、構造的および機能的に調査した。高橋(2011)による、「thii 関係節」「sûŋ 関係節」「裸の関係節」という3つの関係節化形式の分類で分析した結果、タイ語の関係節は、各形式の統語的パターン、および使用される機能の傾向がわかった。「sûŋ 関係節」と「裸の関係節」は主名詞が修飾節の主語という決まったパターンで使用されていたが、それに対して、「thii 関係節」は修飾節の中で主名詞の統語上の位置は様々なパターンでもっとも生産的に用いられ、そして、「限定的用法」も「非限定的用法」もあり、益岡(1995)が指摘する、修飾節と主節の意味的な関係の用法もみられた。

### 1. はじめに

関係節は複雑な構文であるが、効率的なコミュニケーションにおいては欠かせないものの一つであると考えられるであろう。日常会話においては、人やものを指示し、限定するとき、指示詞の使用以外、関係節も効率的に使用できると考えられる。また、物語を語る時、口語でも文語でも、聞き手、または読み手が話しの内容や事態がより理解できるように関係節も必要なものである。このように、関係節は、コミュニケーションにおいては重要なものと考えられる。にも関わらず、タイ語の関係節を対象とした研究は形式的な分類、また、機能的な分類に留まり、関係節の実際の談話における使用の研究は非常に少ない。

タイ語の関係節の分類は、形式的な観点では、①thii 関係節、②sûŋ 関係節、③裸の関係節という3種類の関係節構文が区別できる(高橋 2011)。また、機能的な観点では、「限定的関係節」と「非限定的関係節」で分類し、さらに、「非限定的関係節」を「情報付加」と「場面限定」に分類した研究がある(ソムキャット 2000)。しかし、タイ語の関係節の特徴、またこれらの分類の妥当性を検討するため、談話における実際の用例を詳しく分析す

るのは必要であると考えられる。特に、話し手、または書き手が語る内容やできごとなどをなめらかに、効率的に描写するために、関係節の使用が必要であると考えられる物語ナラティブにおける使用を分析するのは重要であると考えられる。そこで、本研究は、物語ナラティブにおいて、タイ語の関係節がどのように使用されているかを分析し、談話の中にもどのような使用状況、どのような機能で使われているかを明らかにしたい。

## 2. タイ語の関係節の構造の特徴

タイ語の名詞修飾節(attributive clause construction)は、Kullavanijaya, Pranee (2006)では、関係節(relative clause)と同格節(noun complement)に区別されている。関係節は、「修飾節中の述語と底との間に主語や目的語などの格関係が解釈される場合」(筆者訳)とされ、それに対して、同格節は「私が本を買った話」のようなもので、英語でいえば the story that ~のような that を使う構造の場合」(筆者訳)とされている。タイ語の関係節と同格節は形式上では同様であるが、本研究の分析対象は関係節のみとする。

タイ語の関係節構文は名詞の後に置かれる、修飾節後置型(postnominal)であり、関係節構文の語順は(1)のような「主名詞句+関係節」の語順となり、まず主名詞句、次に関係節化形式「thîi」、最後に関係節という語順である。

- (1) nák rian [thîi maa sǎay]  
 学生 関係 来る 遅れる  
 (遅れて来た学生)

タイ語の関係節構文の大きな特徴の一つは、後に詳しく述べる「thîi」、「sǔŋ」、「ʔan」という3種類の関係節化形式が使われていることである。さらに、タイ語の関係節構文には関係節化形式を含まない「裸の関係節構文」(bare relative clause construction)もある(Singnoi 2000、高橋 2011)。

## 3. タイ語の関係節の先行研究

### 3.1 タイ語の関係節化形式についての先行研究

タイ語の関係節の分類については、「thîi」、「sǔŋ」、「ʔan」という3種類の関係節化形式により、①「関係節化形式 thîi を含む thîi 関係節構文」(1)、②「関係節化形式 sǔŋ を含む sǔŋ 関係節構文」(2)、③「関係節化形式 ʔan を含む ʔan 関係節構文」(3)の3種類とするのが一般的である(以下、「thîi 関係節」、「sǔŋ 関係節」、「ʔan 関係節」とする)。た

<sup>1</sup> グロスにある「関係」は、「関係節化形式」から省略したものである。(以下同様)

だし、関係節化形式 $\text{ʔan}$  は、現代タイ語において口語的な表現には使われず、文語的な表現にしか使われない(高橋 2011、Yaowapat, Natchanan2005)。一方、Singnoi, Unchalee(2000)では、タイ語の関係節構文のうち、例(1)、(2)のような「thii」、「sûŋ」という関係節化形式を含んでいる構造は「関係節化形式を含む関係節構文」(overtly marked relative clause)、(4)、(5)のような関係節化形式がない構造は「裸の関係節構文」(bare relative clause)と呼び(以下、「裸の関係節」とする)2種類に大きく分けている。また、Kuno and Wongkhomthong (1981)では、「裸の関係節」は(4)、(5)のように主名詞が関係節の主語という格関係の場合にかぎられると指摘している。

(2) chian mây [sûŋ pen muaj kàw]  
 チェンマイ 関係 である 町 古い  
 (古い町であるチェンマイ)

(3) yín [ʔan pen thii rák khǒŋ khâa pa câw]  
 女性 関係 である 恋人 所有 私  
 (私の恋人である女性)

(4) dek [Ø maa sǎay]  
 子供 Ø 来る 遅れる  
 (遅れて来た子)

(5) khon [Ø khàp rôt khan níi]  
 人 Ø 運転する 車 類別詞 この  
 (この車を運転した人)

Singnoi, Unchalee (2000)は、一般的には、タイ語の「裸の関係節」は「関係節化形式を含む関係節構文」と対応しており、「関係節化形式を含む関係節構文」の縮小形態とも考えられると言っている。そして、「裸の関係節」はインフォーマル場面でよく使われると指摘している。ただし、「裸の関係節」を用いることにより文の意味が曖昧になる場合もある。例えば(6)のように、a と b の両方の意味の解釈が可能であると考えられる。

(6) dèk róŋ phleeŋ châu ʔàʔ ray  
 子供 歌う 歌 名前 何  
 a. (歌を歌っている子供の名前は何?)  
 b. (子供が何という歌を歌っている?)

このような場合は、Singnoi, Unchalee (2000)によれば、(7)、(8)のように関係節化形式が必要であり、被修飾名詞の後ろに関係節化形式を付けると意味の解釈の曖昧さがなくなると指摘している。

(7) Q.dèk [thîi rǒŋ phleŋ] chûu ?à? ray

子供 関係 歌う 歌 名前 何

(歌を歌っている子供の名前は何?)

A.(子どもの名前)

Singnoi, Unchalee (2000)

(8) Q.dèk rǒŋ phleŋ [thîi chûu ?à? ray]

子供 歌う 歌 関係 名前 何

(子供が何という歌を歌っている?)

A.(歌の名前)

Singnoi, Unchalee (2000)

高橋(2011)は、タイ語の関係節構文の分類の見方を再考し、1)「関係節の「断定性」、  
「定形性」」、2)「関係節の主節への「統合度」」、3)関係節化形式の「指示機能」、「名  
詞性」、4)「主名詞句の「同定性」、「定性」」、そして、5)「主名詞句の「特定性」」  
の5つの概念を使ってタイ語の主要な3種類の関係節構文の意味機能を(9)のように定義し  
ている。

(9)「タイ語の主要な3種類の関係節構文」 (高橋 2011、p.272)

#### ①thîi 関係節

主名詞句を限定的に修飾することもあれば、非限定的に修飾することもある。補足的言  
い換えに似ており、その特徴は、話し手が意図した特定の指示物の顕著な特徴を表現する  
ところにある。thîi 関係節構文とは、「特定名詞句」と「特筆的内容を添える名詞句」と  
いう2つの構成素が並列関係で結ばれた構文である。

#### ②sûŋ 関係節

主名詞句を非限定的に修飾する(情報を付加する)。タイ語の典型的関係節であり、その  
特徴は、主名詞句を主題とし、その主題について評言を添えるところにある。sûŋ 関係節  
構文とは、「主題名詞句」と「評言補文節」という2つの構成素が弱い従属関係で結ばれ  
た構文である。

### ③裸の関係節

複合名詞句の構成素と同様、常に非定形で、話し手によるアスペクト解釈やモダリティ解釈を明示化できない。かなり慣用化され固定化された紋切り型の概念を表すのに適している。

## 3.2 タイ語の関係節の機能についての先行研究

関係節の機能についての研究では、「限定」対「非限定」という分類は代表的な分類であろう。限定的な関係節とは、例(10)のように、修飾節「魚を焼く」は修飾される名詞「男」の表す集合を分割し、「男」の真部分集合になるため、修飾節は「男」に対して限定を行っていると考えられる。一方、非限定的な関係節は(11)のようなものである。(11)では、修飾節「先月、タイから帰ってきた」は修飾される名詞「A さん」に対する情報付加の役割を果たすため、非限定的な関係節である。

(10) [魚を焼く] 男

(11) [先月、タイから帰ってきた] A さん

タイ語の「限定」と「非限定」の関係節の分類も、以上の概念により、例(12)で例示されるように、thii 関係節は限定的な関係節であり、例(13)で例示されるように、sûŋ 関係節は非限定的な関係節であると分類している研究も少なくない。

(12) nák rian [thii maa sǎay] mii sǒŋ khon  
学生 関係 来る 遅れる いる 二 人  
(遅れてきた学生は二人いる。)

(13) chian mày [sûŋ pen muəŋ kàw] mii chûu sǎŋ mâak  
チェンマイ 関係 である 町 古い ある 有名 とても  
(古い町であるチェンマイはとても有名だ。)

しかし、3.1 で述べた裸の関係節が限定的な関係節か、非限定的な関係節かと指摘する研究は管見の限り、まだ見当たらない。

タイ語の従来の方文法の説明では、限定的関係節では thii 関係節化形式が用いられ、非限定的関係節では sûŋ 関係節化形式が用いられるとしていたが、ソムキヤット(2000)では、非限定的な関係節にも thii 関係節化形式で表す場合もあると述べている。そして、ソムキ

ヤット(2000)は、益岡(1995)の日本語の非限定的な関係節の分類を使って、日本語の非限定的な関係節とタイ語の非限定的な関係節の分類を比較している。

益岡(1995)では、非限定的な関係節を「情報付加」と「述定的装定」とに分けている。さらに、情報付加の中には、主名詞に対する情報付加と、主節で表されている事態に対する情報付加とがあり、後者には、「対比・逆接」「継起」「原因・理由」「付帯状況」などの関係にあるものが存在するとしている。以下では、(14)は「主名詞に対する情報付加」の例であり、例(15)、(16)は「主節に対する情報付加」の例である。そして、「述定的装定」については、例(17)、(18)のように形式の上では名詞を修飾する「装定」の表現になっているが、意味内容からすると、「述定」としているという特徴があり、「述定的装定」の関係節と分類している。((14)~(18)は益岡 1995 からの例(14) (4) (8) (19) (27))

(14) [コカイン密輸事件で逮捕、送検された] 角川書店社長の角川春樹容疑者は、父親の源義氏ともども異色の排人として名が通っている。

(15) [いつもは孫に甘い] 祖父が、そのときばかりは、きびしい声できっぱりと言った。

(16) [最後のバスに乗り遅れた] 僕はしょうがなく橋寺をうしろにして一人でてくてく歩き出しました。

(17)修一は [動揺する] 自分を感じながら言った。

(18) [いかに仮説を立てて論を進めることに味をしめた] アインシュタインとはいえ、あくまでも科学者である。

(19)ソムヤット(2000, p. 28)によるタイ語の「非限定的な関係節」の分類

		修飾節の削除	関係節化形式
1. 情報付加	1.1主名詞に対する情報付加	強調しない場合 (可能)	強調しない場合 (sǔŋ)
	1.2主節に対する情報付加	強調する場合 (不自然)	強調する場合 (thǐi)
	1.3提示的關係節構文	可能	thǐi
2. 場面限定			thǐi

ソムキャット(2000)は、益岡(1995)の分類を踏まえ、タイ語の非限定的な関係節を以上の(19)のように分類している。ソムキャット(2000)によれば、タイ語の非限定的な関係節も「情報付加」と「情報付加ではない」(述定的装定)非限定的な関係節に分けられ、「情報付加」はさらに、「主名詞に対する情報付加」、「主節に対する情報付加」、「提示的關係節構文」の3つに分類できるという。1.1の「主名詞に対する情報付加」と1.2の「主節に対する情報付加」の場合は「sûŋ 関係節」でも「thii 関係節」でも使える。普通 sûŋ が使われるが、強調されるときには thii が使われ、「提示的關係節構文」には thii だけが使われるという。強調することは、修飾節が主節や談話の流れに対して、大切な情報と考えられ、この場合は修飾節を削除できず、thii が使用されるということである。「提示的關係節構文」の特徴は、主名詞と関係節の間に強調修飾語や副助詞など((23)では「nii ʔeeŋ」(〜こそ))が生起でき、修飾節は主名詞が修飾節の出来事をしたという旧情報を改めて取り上げるものである。そして、「述定的な装定」(情報付加ではない)の関係節の分類は、「場面限定」と呼び、thii だけが使われると言っている。

以下の例(20)は「主名詞の情報付加」の例であり、例(21)は「主節に対する情報付加」の例である。そして、例(22)も「主節に対する情報付加」の例であるが、関係節の出来事は主節の内容や話全体の内容に重要な情報であるため、「sûŋ」の代わりに「thii」を使用する例である。また、例(23)は提示的關係節構文の例である。一方、場面限定の関係節の例は、例(24)のようなものである。((20)~(24)はソムキャット 2000 からの例(9) (27) (29) (32) (38))

(20) kaan pràʔ chum plian pay mii thii laa kuun rəə yan pháak [sûŋ  
 会議 変更する 行く ある に ラークーンローヤルパーク 関係  
 pen hoo ten thii pen khláp]  
 である ホテル 関係 である クラブ  
 (会議場はクラブであるホテルのラークーンローヤルパークに変更した。)  
 (日本語訳は筆者訳：以下同様)

(21) mûa rĕk kəət rŭaŋ lăay khon sà dœŋ kwaam cam noŋ cáʔ  
 とき 始め 起きる 事件 多く 人 表す 意図 非現実  
 taam pay yŭu káp mĕe khǒŋ thəə dŭay sám mŭan yáaŋ lun  
 共に いる 一緒に 母 所有 彼女 にも 同じように 伯父  
bun won [sûŋ khəəy pen khon kháp rót thii nŭi] kláp  
 ブンウォン 関係 ~たことがある である 運転手 ここ 却って  
 hòp khŕəp khrua taam pay yŭu duu lœ mĕe khǒŋ thəə  
 連れる 家族 共に いる 面倒を見る 母 所有 彼女  
 (この事件が起こったときに、多くの人が彼女の母と一緒にいる態度を表した。ここで

運転手をしたことがあるブンウォンも、自分の家族と共に彼女の母の面倒を見に行った。) )

- (22) *thəə cuŋ hǎn pay yip thêep múan rêek thîi mɔŋ hěn*  
 彼女 従って 向ける 取る カセットテープ 本 (類別詞) 始め 関係 見える  
*maa faŋ praa kòt waa pen thêep khǒŋ phín frɔɔy*  
 くる 聞く になる である カセットテープ の ピンク・フロイド  
 [thîi câw nɔŋ chaay tua dii ʔaw maa thín wáy]  
 関係 前接辞 弟 重要人物 持ってくる 置いてある  
 (彼女が最初に見えたカセットテープを取って聞いたが、そのカセットテープは自分の弟が持ってきたピンク・フロイドのテープであった。)

- (23) *thəə nîi ʔeɛŋ [thîi bòk khǎw]*  
 あなたこそ 関係 告げる 彼  
 (あなたこそ、彼に告げたもの)

- (24) *rá daa khòp khun wíʔpát [thîi kà rúʔ naa tò nɔŋ]*  
 ラダー 感謝する ウィパット 関係 目をかける に対する 妹  
 (ラダーは自分の妹に目をかけるウィパットに感謝した。)

以上で見たように、タイ語の関係節は、形式的な観点での分類では、「thîi 関係節」、  
 「sŭŋ 関係節」、そして、「裸の関係節」という3分類があり、また、機能的な観点での  
 分類は、「限定的な関係節」と「非限定的な関係節」に分類され、さらに、「非限定的な  
 関係節」には「情報付加」と「場面限定」という分類がある。

### 3.3 本研究の目的

従来のタイ語の名詞修飾節、特に関係節の研究では、形式的な分類、また、機能的な分  
 類がされてきた。しかし、各分類は談話の中にはどのような機能、どのような傾向で使用  
 されているかという詳細な分析はされていない。さらに、談話における使用は、「限定」  
 対「非限定」の使用だけではなく、「非限定的な関係節」の中でも、各関係節化形式の詳  
 細な分析も必要であろう。そこで、本研究では、以上の先行研究の成果をふまえ、物語ナ  
 ラティブにおいて、タイ語の関係節がどのような場面で使用されているかを調査し、物語  
 ナラティブの談話の中でどのような機能として使用されているかを詳細に分析したい。

(I)物語ナラティブにおいて、タイ語の関係節がどのようなパターン、どのような場面で  
 使用されているか。



(II)物語ナラティブにおいて、タイ語の関係節がどのような機能で使用されているか。

#### 4. 研究方法および使用データ

本研究はナラティブで使用した例文を分析する目的のため、様々な物語からデータを収集した。収集したデータは2つの資料からのデータであった。1つ目は「*The Structure of Thai Narrative*」という本(txt1 から txt9 まで)に用いられているすべての関係節である。この本は様々な物語(イソップ童話、タイの昔話など)があり、様々な関係節の例文が集められた。そして、もう一つの資料はタイの昔話という「*Nitan Lumnaerm*(河川物語)」の本(txt10 から txt16 まで)である。この資料は本というものでも、子供のための本であり、使用した文章は話し言葉に近いと思われる。

表1 各物語の文数と関係節を使用した回数

物語の番号	全文数	関係節の使用回数	関係節の使用パーセント
txt1	95	3	3.16
txt2	86	5	5.81
txt3	12	2	16.67
txt4	25	5	20.00
txt5	21	0	0.00
txt6	32	4	12.50
txt7	21	5	23.81
txt8	27	8	29.63
txt9	37	1	2.70
txt10	50	13	26.00
txt11	38	7	18.42
txt12	52	11	21.15
txt13	41	5	12.20
txt14	36	9	25.00
txt15	26	3	11.54
txt16	13	3	23.08
合計	612	84	13.73

## 5. 研究結果および考察

### 5.1 使用頻度

分析した結果は、表2で示したように、関係節を使用した回数84回のうち、*thii* 関係節の使用は58回(69.05%)、*sũŋ* 関係節の使用は10回(11.90%)、そして、*?an* 関係節は3回(3.57%)であった。また、裸の関係節は13回(15.48%)使われた。表2で見たように、*thii* 関係節の使用は一番多く、*?an* 関係節の使用は少なかった。先行研究では、*?an* 関係節は文語的、あるいは文学的な表現であるとされていたが、本研究のデータでは少なかった。本研究で使用した資料は書記言語とは言え、ナラティブ物語であるから、口語的な表現が多く使用されるため、*?an* 関係節の使用が少なかった原因の一つであると考えられる。従って、本研究では、*?an* 関係節は扱わない。

*sũŋ* 関係節の使用は、11.90%であり、比較的少ないという結果だったが、以下で述べるように、本研究のデータではかなり決まった傾向で使われていた。また、裸の関係節の使用頻度も少なく、先行研究でも述べたように、かなり使われるパターンが限られていると考えられる。

表3は、関係節の機能別の使用頻度を示したものである。関係節の「限定的用法」も、「非限定的用法」も、両方見られた。頻度を比較すると「限定的用法」が「非限定的用法」を少し上回っている。後で詳細に分析するが、データ上では、先行研究でも指摘されているように、タイ語の関係節の「非限定的用法」は *thii* 関係節の例も、*sũŋ* 関係節の例も見られた。

表2 各形式の使用頻度

	<i>thii</i> 関係節	<i>sũŋ</i> 関係節	<i>?an</i> 関係節	裸の関係節	合計
使用回数	58	10	3	13	84
パーセント	69.05	11.90	3.57	15.48	100

表3 各機能の使用頻度

関係節化形式	限定的用法	非限定的用法	合計
使用回数	52	32	84
パーセント	61.90	38.10	100

## 5.2 各関係節化形式の使用パターンおよび使われた文脈

各形式の使用パターンの調査から、各形式はそれぞれ決まったパターンで使われる傾向にあることがわかった。裸の関係節においては、主名詞はすべて関係節の主語であり、先行研究の指摘が裏付けられた。そして、sûŋ 関係節の場合、本研究のデータでは少なかったが、全ての例文は、裸の関係節と同様、主名詞が関係節との主語の格関係というパターンしかみられなかった。それに対して、thii 関係節は生産的に使われていることがわかった。以下で、各形式の使用パターンの使用傾向を詳細に説明していく。

### 5.2.1 裸の関係節の使用パターンおよび使われた文脈

裸の関係節の使用パターンは、本研究のデータでは 13 例中全て先行研究でも述べたように、主名詞は関係節との主語の関係の場合である。以下の例で見ると、(25)では、被修飾名詞「khon」は修飾節「mii pan yaa læk lǽm」の主語であり(26)でも、被修飾名詞「máa」は修飾節「taay tua nùŋ」の主語である。

(25) khon [mii pan yaa læk lǽm]

人 ある 理知 機才

(賢明な人)

(txt2)

(26) (cîŋ còk) phûut wâa “mii máa [taay tua nùŋ] yûu thaŋ thîi yúŋ

きつね 言う ～と ある 馬 死ぬ 一頭 ある 方 に 筋向かい

pay nõy”

いく 少し

(きつねは)「少し筋向かいに死んだ馬が一頭あったよ」と言った。)

(txt6)

また、本研究のデータでは、(27)、(28)のような被修飾名詞の後ろに phûu という名詞が使われるものが 2 例あった。松山(1996)では、phûu という名詞は「人、者〈動詞または形容詞に前接して～する人の意をあらわす〉」と説明している。タイ語では、「phûu krà? tham」(行為者)、「phûu tèn」(著者)などの複合語があり、「phûu thîi pen bi? daa」(父たる者)のように関係節に前接することもできる。

しかし、本研究の次の 2 例のような構造は、決まった言葉ではなく、生産的に作成されているため、複合語よりも、むしろ、以下の例の phûu という名詞は裸の関係節の主名詞として使用し、前の「小坊主」「ワニを討つ人(タイの昔の職業)」という名詞の後ろに

並べており、その名詞の個性や状況を説明する使い方と考えられる。このような構文は例(29)、(30)のように小説や、法的文書や、公文書などでよくみられると思われる。

(27) sǎam má neen phûu [mii wêet mon khaa thǎa]  
 小坊主 者 あるマジック 魔術  
 (マジックや魔術ができる小坊主)

(txt11)

(28) mòo práap còo rá? khêe phûu [mii? aa khom kèŋ kláa]  
 医者 討つ ワニ 者 ある 呪文 上手 勇ましい  
 (上手に呪文ができるワニを討つ人)

(txt10)

(29) sǎa mii phûu [mây tŋ kaan ráp dèk thîi kəət càak  
 夫 者 否定 希望する 認める 子供 関係 生まれる から  
 phan rá yaa mày pen bùt khǒŋ ton] sǎa mâat róŋ tò  
 妻 新しい である 嫡出子 所有 自分 可能 上訴 に  
 sǎan dáy daŋ kàránií tò pay ní  
 裁判所 できる にて 場合 以下の  
 (新しい妻から生まれた子供を認めてほしくない夫は次の場合にて裁判所に上訴することができる。)

(thai national corpus, arts.chula.ac.th)

(30) phan ?èek wí?nay phûu [pen hǔa nǎa khà nà? nán] ríak khǎw khǎw  
 大佐 ウィナイ 者 である 上司 そのとき 呼ぶ 彼 入る  
 pay phóp  
 行く 会う  
 (そのときの上司であるウィナイ大佐は彼を呼んだ。)

(thai national corpus, arts.chula.ac.th)

さらに、裸の関係節とも考えられる構造は、(31)、(32)のように人物や物質などの位置を示す場合もある。このような構造は、峰岸(2006)では関係節構文に含めており、(33)のように「関係節化形式+動詞」を省略した構造であると述べている。しかし、Iwasaki & Ingkaphirom(2005)は英語のような「前置詞句」(Prepositional Phrase)としている。本研究ではこのような構造は裸の関係節に含めない。

(31) sôm bàt [nay thâm]

宝物 中 洞窟

(洞窟の中にある宝物)

(txt11)

(32) bâan [rim mêε náam]

家 岸 川

(川端にある家)

(txt16)

(33) nǎn sǔu [(thii yûu) bon tó?]

本 関係 在る 上 机

(机の上にある本)

峰岸(2006)

### 5.2.2 sûŋ 関係節の使用パターンおよび使われた文脈

sûŋ 関係節は本研究のデータの中に 10 例あったが、全て(34)のように主名詞が修飾節との主語の格関係というパターンであった。

(34) N [sûŋ (S) V]<sup>Re</sup>



(35) phuu bòo bit [sûŋ yùu hàan càak tua muaj læy sǎam ki? loo mêet]

プーボービッド 関係 ある 離れる から 市内 ルーイ 三 キロメートル

(ルーイ市内から3キロメートル離れているプーボービッド)

(txt11)

(36) lûuk khon klaan [sûŋ yùu thaan thít tâ? wan ?òok]

真ん中の子 関係 いる 方 東

(東にいる真ん中の子)

(txt1)

(37) wát chii chon na bòt [sûŋ mii ?aa naa khèet tít tò? kan]

ワッチーチョンナボット 関係 ある 領地 隣接 互いに

(隣接するワッチーチョンナボット)

(txt7)

(38) yaay [sùŋ mii ʔaa chíip khǎay khànm]   
 祖母 (母の母) 関係 ある 職業 売る お菓子   
 (お菓子を売っている祖母)

(txt2)

(39) wát sàʔ kaa ráʔ phraam [sùŋ pen ʔam mâat]   
 ワサカープラーム 関係 である 貴人   
 (貴人であるワサカープラーム)

(txt7)

(40) phráʔ thǐʔ daa [sùŋ kin núa plaa mǎo pay phiaŋ lék nóoy]   
 王女 関係 食べる 肉 スズキ いく だけ 少し   
 (スズキを少ししか食べなかった王女)

(txt14)

このように、sùŋ 関係節の使用パターンは、主名詞が修飾節の主語というパターンのみだった。本研究のデータでは、sùŋ 関係節の用例が少ないが、決まったパターンしか見られなかった。ただし、他の統語的位置に表れることがないどうかはまた検討する必要があると筆者は考える。

### 5.2.3 thǐi 関係節の使用パターンおよび使われた文脈

thǐi 関係節の使用パターンは、かなり生産的に使用されていると考えられる。本研究のデータを分析した結果が表4である。

表4 thǐi 関係節の使用パターン(被修飾名詞と修飾節との格関係と動詞の種類)

被修飾名詞と修飾節との格関係		主語(S)	目的語(O)	前置詞句(PPO)	合計
動詞の種類	他動詞	6	14	8	28
	自動詞	19	—	7	26
	コピュラ動詞 <sup>2</sup>	4	—	—	4
合計		29	14	15	58

<sup>2</sup> Iwasaki & Ingkaphirom(2005)では、コピュラ動詞(copular verbs)は、タイ語では、英語の「is, am, are」という be 動詞、つまり、コピュラ文で使う動詞「pen, khuu」動詞であると指摘している。そのほかに「khláay (like)、duu mǎan (look like)」などのものもある。

thii 関係節の使用パターンの傾向として、まず、主名詞が修飾節との主語の格関係の場合、3分の2(29例中19例)は例(41)から(46)のように自動詞が使用されている。

(41) mêε mãá [thii khooy yúu thii prá? tuu muəŋ]  
 母犬 関係 待つ いる で 門 街  
 (街の門で待っている母犬)

(txt1)

(42) lúuk [thii kam laŋ cà? kəət]  
 子 関係 起動 生まれる  
 (生まれる子供)

(txt1)

(43) phúu khon [thii rôət chii wít]  
 人々 関係 生き残る  
 (生き残る人々)

(txt14)

(44) khâaw khǒŋ khǎn màak [thii looy klàan]  
 新郎からの贈り物 関係 浮く バラバラ  
 (バラバラ浮いている新郎からの贈り物)

(txt12)

(45) khwǎan lêm [thii tòk náam]  
 斧 助数詞 関係 落ちる 水  
 (水に落ちた斧)

(txt4)

(46) mêε náam [thii lǎy phàan klaəŋ muəŋ]  
 川 関係 流れる 通る 真ん中 街  
 (街の中を流れる川)

(txt14)

主名詞が関係節との目的語の格関係の場合、14例中12例が限定的な用法で使用されている。例文から詳しくみると、主に(12例中9例)以下の例のように、指示物は物語ですでに登場した物質(47)や出来事(48)という主名詞であり、そして、その後、主名詞が再登

場するとき、その主名詞に対して主人公が何かをしたことという修飾節で指示する機能として使われる用法がみられる。例えば、(47)では、物語の中で主人公が小川に斧を落としたというストーリーがあり、その斧を示すために修飾節を使っている。(48)では、主人公が領主に対していろいろな悪いことをしており、そのことを指示するように修飾節が使われている。このように、関係節で他動詞が使われたパターンは物語の中で指示物に対して主人公がしたことを利用して、指示物を物語に再登場させるために使われている用法がほとんどだった。

(47) khwǎan lêm [thîi ton tham tòk náam]

斧 類別詞 関係 自分 使役 落ちる 水

(自分が水に落とした斧)

(txt4)

(48) tɛɛ mûa hěn cǎw muaŋ thâa khǝn yaaŋ bon fǎŋ kôo sǎw sòok

しかし ~と 見える 領主 ターコンヤーン 上 川岸 ~と 悔やむ

sǎm núk phít [thîi ton kôo khûn]

悔悛 罪 関係 自分 犯す

(しかし、川岸にいるターコンヤーン街の領主が見えると、悔やんで、自分がやった罪を悔い改めた。)

(txt10)

さらに、主名詞が修飾節の中で前置詞句内の名詞である場合、以下の例のように、指示物の所在する場所(49)、出来事が起きた場所(50)、(51)、(52)などのような使い方が多くみられた(15例中10例)が、自動詞と他動詞の使用の割合は、両方同じぐらいみられた。他は、(53)、(54)のような用途を表す内容や、補語などの使い方があった。

(49) tam bon [thîi taa yaay yùu]

村 関係 祖父母 いる

(祖父母が住んでいる村)

(txt16)

(50) chǝn [thîi sǎam má neen phlòo khûn maa]

穴 関係 坊主 出る 上がる くる

(坊主が出てきた穴)

(txt11)



(51) mêe náam [thii còw rá? khêe khâap taa hăay pay]  
 川 関係 ワニ 啜える 祖父 なくなる いく  
 (ワニが祖父を啜えて行った川)

(txt16)

(52) nòon náam [thii phóp bàk háaw]  
 湖沼 関係 見つける バックハウ  
 (バックハウを見つけた湖沼)

(txt10)

(53) phûut sèt khon khăay núa kôo khwáa mîit [thii mii wáy sǎm rǎp lêe  
 言う 完了 肉屋さん ~と 取る ナイフ 関係 ~ために 切る  
 núa sàt] phlòo prúat kh âw maa hăa mǎa cîncòok  
 肉 食み出す 入る くる 会う きつね  
 (肉屋さんは言う、すぐ肉を切るためのナイフを取って、きつねに向かって歩いて行  
 った。)

(txt16)

(54) tòomaa phían pen ?àaw phrá? naan [thii riak kan yûu thúk wan níi]  
 後で 余所にする アオプラナーン 関係 呼ぶ 現在  
 (後で、(その場所の名称は) 現在(皆が) 呼んでいるアオプラナーンになった。)

(txt10)

### 5.3 物語ナラティブにおける各関係節の機能

関係節の機能については、一般的には「限定的修飾」と「非限定的修飾」がある。タイ語においては、関係節化形式により「thii 関係節」は「限定的な用法」であり、「sún 関係節」は「非限定的な用法」であると分けられるが、「裸の関係節」はどのように使用されているか、また、各関係節化形式で物語ナラティブにおいてどのように使用する傾向があるかは、本節で以下に述べる。

#### 5.3.1 裸の関係節の機能

裸の関係節で使われた機能については、従来の先行研究で「限定的な用法」であるか「非限定的な用法」であるかという分類の先行研究はなかったが、Kuno and Wongkhomthong (1981)では、裸の関係節は「一般的特徴付け」に使われると述べている。「一般的特徴付

け」ということは、主名詞に修飾節で話し手の個人的な特徴や性質を付けることではなく、社会全体の考えや、概念ということであると指摘している。

本研究のデータは、裸の関係節の用例が13例(15.48%)だけで、このうち *phûu* を使った例は2例あり、かなり少なく、用例が限られているが、「限定的な用法」と「非限定的な用法」という機能的な分類からみると、主には「限定的な用法」が13例中12例であった。(55)では、[*phûu mii wêet mon khaa thǎa*](マジックや魔術ができる者)の修飾節が「*sǎam má neen*」(小坊主)の主名詞に対して、どの小坊主であるか限定する役割をしているといえるであろう。(56)、(57)では、「*khǎay plaa*」(魚を売っている)と「*yaaw hǎa sên tham càak nǎj khwaay yǐ sip tua*」(5センの長さの20頭の水牛の皮で作った)の修飾節は、「*chaw mǎon*」(モーン族の人)と「*chûak nǎj*」(革紐)の主名詞に対して、どの主名詞に対して指示するか、読み手が分かるように限定する機能をしていると考えられる。以上(55)、(56)、(57)の例から分かるように、裸の関係節は、ほとんど主名詞に対して限定する機能をしているものである。

(55) *sǎam má neen phûu [mii wêet mon khaa thǎa] rûup nùj núk khǎ? nǎon*  
 小坊主 者 ある マジック 魔術 類別詞 一 思う浮いた  
*yǎak thót lǎon wí? chaa thǐi lǎw rian maa*  
 ~たい 試す 知識 関係 勉強 くる  
 (一人のマジックや魔術ができる小坊主は自分が習ったこと(マジック)を試したいと思った。)

(txt11)

(56) *wan nùj mii chaw mǎon [khǎay plaa] phaay rua phǎan maa thǐi*  
 ある日 いる モーン族の人 売る 魚 漕ぐ 船 通る くる に  
*thānǎam nǎa bǎan*  
 波止場 前 家  
 (ある日、魚を売っているモーン族の人が船に乗って、家の前にある波止場を通ってきた。)

(txt16)

(57) *thǎe triam chûak nǎj [yaaw hǎa sên tham càak nǎj*  
 彼女 準備する 紐 皮 長い 五 セン(昔の長さの単位) 作る から 皮  
*khwaay yǐ sip tua]*  
 水牛 二十 頭  
 (彼女は5センの長さの20頭の水牛の皮で作った革紐を準備した。)

(txt10)

これら限定的用法とともに、裸の関係節は、本研究では1例しかなかったが、非限定的用法もみられた。(58)の場合は、「plɛŋ kaay maa」(人間に変身してきた)の関係節が、「phá yaa nâak」(龍)の主名詞に対して、どの龍かを限定するのではなく、この龍は人間に変身してきたという情報を表すと言えるであろう。以前の文脈に登場した龍であるため、非限定的用法であると考えられる。このように、1例しかなかったが、裸の関係節は非限定的にも用いることができると考えられる。

(58) sũŋ      thɛ́ɛ ciŋ léɛw    chaay    phũu ní    khuu      pháyaa nâak    [plɛŋ kaay maa]  
 接続詞   本当は～    男          この人      である    龍          変身する    くる  
 nân ʔɛɛŋ  
 終助詞

(本当はこの男の人は(人間に)変身してきた龍である。)

(txt12)

さらに、先行研究で「裸の関係節は「一般的特徴付け」に使用される」と指摘しているが、本研究の例文から見ると、(56)の「chaw mœn khây plaa」(魚を売っているモーン族の人)、(57)の「chũak năŋ yaaw hâa sên tham càak năŋ khwaay yîi sîp tua」(5センチの長さの20頭の水牛の皮で作った革紐)などのような例は、タイの社会では一般的な考え方や概念とは考えられないであろう。このような例は、修飾節が主名詞に対して、性質や属性を表すのではないかと考えられる。これについては、今後検討する必要があると思う。

### 5.3.2 sũŋ 関係節の機能

先行研究では、sũŋ 関係節は非限定的に用いられるとされている。本研究のデータ上でも、用例数は10例しかなく、かなり少なかったが、先行研究で言われたように、全て主名詞が修飾節の主語の関係にあるものであり、非限定的に使われるという決まったパターンで使われている。例えば、(59)では、物語の中で主人公に3人の子供がいて、修飾節の「yũu thaŋ thít tàʔ wan ʔòk」(東の方に住んでいる)は「lũuk khon klaŋ」(真ん中の子供)という主名詞を限定する機能ではなく、つまりただ主名詞に情報を付加するだけであると考えられる。また、(60)、(61)では、「phuu bòk bit」(プーボービット)と「wát sàʔ kaa ráʔ phraam」(ワッサカーラブラム)という主名詞は固有名詞であり、物語の中では他の「phubòk bit」と「ワッサカーラブラム」があるという解釈はなく、この場合も修飾節は主名詞に対する情報を加える役割をしていると考えられる。さらに、(62)では、タイ語では「yaay」(おばあさん)という名詞は、「母方の祖母」という意味であるから、主名詞はすでに限定されているため、修飾節は情報を付加する機能をしていると解釈できる。以下の例で分かる

ように、*sûŋ* 関係節は限定的な用法ではなく、先行研究と同様、非限定的な用法、つまり情報を付加する役割をしていると言える。

(59) *cuj chuan nay phraan dœn thaŋ tòɔ pay hǎa lûuk khon klaan*  
 そしたら 誘う 猟師 旅する 続く 行く 会う 真中の子

[*sûŋ yûu thaŋ thít tà? wan ?òok*]

関係 いる 方 東

(そうしたら、猟師を誘って、東にいる真ん中の子供に会いに行く。)

(txt1)

(60) *bon yòt khǎw phuu bòɔ bit [sûŋ yùu hàŋ càak tua muaŋ ləəy*  
 上 山頂 プーボービッド 関係 ある 離れる から 市内 ルーイ  
*sǎam ki? loo mèet] mii thâm phuu bòɔ bit thii kwáŋ yǎy*  
 三 キロメートル ある 洞窟 プーボービッド 関係 広い

(ルーイ市内から3キロメートル離れているプーボービッドの山頂にはプーボービッドという広い洞窟がある。)

(txt11)

(61) *phrá cáw?à cháat sàt truu kuj soŋ prúk sǎa tòk loŋ kan káp*  
 アシャッサトルー王 それで ご相談 合意する 一緒に ~と

[*wát sǎ? kaa rá? phraam [sûŋ pen ?am mâat]*

ワッサカーラブラーム 関係 である 貴人

(それで、アシャッサトルー王は貴人であるワッサカーラブラームとご相談なさり、合意された。)

(txt7)

(62) *sǐi thá non chay pay yûu káp yaay [sûŋ mii ?aa chíip*  
 スィタノンチャイ 行く 居る 一緒に 母方の祖母 関係 持つ 職業

*khǎay khà nõm]*

売る お菓子

(スィタノンチャイはお菓子売っているおばあさんと一緒に住むために行った。)

(txt2)

また、3.2で述べたように、ソムキャット(2000)では、タイ語の *sûŋ* 関係節は非限定的に「情報付加」という機能があるが、「主名詞に対する情報付加」、「主節に対する情報付加」に分けられると述べている。益岡(1995)によれば、主節に対する情報付加は、「対比・逆接」「継起」「原因・理由」「付帯状況」の関係にあるものとしている。本研究の

データ上では、10 例中、上の例のように主名詞に対する情報を付加する例が多かったが、主節に対する情報を付加すると考えられる例は以下の例(63)の 1 例だけある。(63)の場合は、物語の内容では、スズキを食べた街の人々が洪水で水に沈んで死んだが、王女は少ししか食べなかったため、死なないで逃げられるという「原因・理由」の関係が考えられる。

(63) phrá? thí? daa [sũn kin núa plaa mǔɔ pay phiaŋ lék nǔɔy] khûap máa  
 王女 関係 食べる 肉 スズキ いく だけ 少し 駆る 馬  
 wá laa hòk nǐi ʔòk càak muaŋ pay dáy  
 ワラーホック 逃げる 出る から 街 行く できる  
 (スズキを少ししか食べなかった王女はワラーホックという馬に乗って、街から逃げて行けた。)

(txt14)

### 5.3.3 thii 関係節の機能

タイ語の関係節構文では、thii 関係節は主に限定的な用法で使用されていると説明する研究が多かった。本研究でも、thii 関係節の 58 例中 34 例は、以下の例のように限定的に使用されている。例えば、(64)では、修飾節の「kam laŋ cà? kǎət」(これから生まれる)は「lúuk」(子供)という主名詞を修飾し、この「lúuk」(子供)の主名詞は話の中でどの子供を示すかわかるように、この場合、修飾節は限定する機能をしていることが考えられるであろう。(65)は、森の中に「thee phaa rák」(神様)が様々いるから、どのような神様を指示するかという機能で、この場合も修飾節「pen phũu rák sǎa lam than」(小川を守る)は限定する用法として使用されている。(64)、(65)の場合は、主名詞の性質について考えてみると、両方の指示物は物語の中で初めて登場するものであるため、読み手、聞き手にはっきりわかるように修飾節で指示する機能、つまり限定的な用法として使用されていると考えられる。

(64) man khít nay cay wáa khũun yũu baan naay kǎw m̄a  
 代名詞 考える 中 心 ~と 無理に~ いる 家 元の主人 ~たら  
 tòk lúuk lúuk khoŋ cà? m̄ay plǔɔt phay phrǔ? lúuk lúuk khǔɔŋ  
 子供を産む 子供 おそらく 否定 安全 ~から 子供たち 違くない  
 cǎw khǔɔŋ baan kǔɔ mii lǎay khon lé? yaŋ ʔaa yú? nǔɔy  
 主人 家 なので いる たくさん 人 及び まだ 若い  
 ʔǎat cà? pen? an tà raay kǎe lúuk [thii kam laŋ cà?  
 恐れがある ~になる 危険 に対して 子供 関係 非現実  
 kǎət] dáy  
 生まれる 可能

(母犬は「今の主人にはたくさん若い子供がいるから、ずっとここに住んでいたら、これから生まれる自分の子供たちは安全ではないだろう」と思った。)

(txt1)

- (65) thee phaa rák [thîi pen phûu rák sǎa lam thaan] mîi kwaam sǒŋ sǎan  
 神 関係 である 者 守る 小川 ある 憐憫  
 cuŋ mâa plôp yoon ʔaw cay hây yùt róŋ hây léew kǒw loŋ  
 それで 来る 宥める 労わる 使役 停める 泣く そして 下る  
 pay ŋom ʔaw khwǎan thǒŋ khûn maa hây lêm nùŋ  
 行く 水中で探す 取る 斧 金 上げる 来る あげる 類別詞 一

(小川を守る神様は彼を気の毒に思っ、もう泣かないように応援して、川の水中から金の斧を持ってきてあげた。)

(txt4)

thîi 関係節の限定的用法の 34 例のうち、初めて登場する指示物を指示する主名詞は 12 例であり、再登場する指示物を指示する主名詞は 22 例であった。再登場するとき、指示物を明確にするため修飾節に旧情報が示される場合、つまり、「再登場+旧情報」は多かった(20 例)。ただし、本研究のデータでは、(66)、(67)のように新しい情報の場合もみられた。(66)では、主人公はこの小坊主が自分の死んだ弟であることがわかったが、この弟は生まれ変わった「kláp chaat maa kǎət」ということであった。(67)は、おじいさんが魔力の池から自分の手で水をすくって飲んだから、その手が若くなったことを述べており、その手を示すときに、「khǎy hiaw kreŋ」(乾燥した)の修飾節で示している。(66)、(67)の場合、修飾節の内容は物語の中で述べられていない情報であるため、新情報なのではないかと思われる。このように、すでに物語に登場したものであっても、新情報の修飾節を使って指示する用法もあった。

- (66) khǎw cuŋ rúu wǎa neen nán pen nóŋ khǒŋ khǎw [thîi  
 彼 だから 分かる ~と 小坊主 その である 弟 所有 彼 関係  
 kláp chaat maa kǎət]

生まれ変わる

(彼はこの小坊主が生まれ変わった弟なのだわかった。)

(txt2)

- (67) muu [thîi khǎy hiaw kreŋ] kǒw riap tuŋ mǎan muu khǒŋ  
 手 関係 以前 乾燥する それで 引き締まる 同じように 手 所有

khon nũm nũm

人 若い男

(そうしたら、乾燥した手は若者の手と同じように引き締まるようになった。)

(txt9)

さらに、5.2.3 で述べたように、thii 関係節は、指示物が物語にすでに登場したものであり、それに対して主人公が何をしたかを表す関係節で指示物を限定する使われ方があった。本研究のデータでは指示物を再登場させる(22例)際に、このような例は9例あった。例えば、(68)では、ワニを討つ人がワニを捕まえるために、道具を準備して、銚を革紐で巻きつけた。そのあと、その銚を示すために、「mát chũak nãŋ」(革紐を巻きつけた)の修飾節で指示する例であった。そして、(69)は、物語の中で「木こりがわざと斧を川に落として、神様が水中で探してあげようとした」という話があった。そのあと、その斧を指示するために、「tham tòk náam」(水に落とした)という修飾節を使用した例であった。このように、既に登場したものを再登場させる際に、読み手がそれを特定できるように旧情報で指示することであると考えられる。

(68) ?aw chà mùak [thii mát chũak nãŋ] theeŋ thá? lú? phæe loŋ pay nay  
 使う 銚 関係 結ぶ 革紐 刺す 貫通 筏 入る 行く 中  
 náam khruŋ lêm  
 水 半分 類別詞

(革紐を巻きつけている銚で筏を半分ぐらい突き刺した。)

(txt10)

(69) thee phaa rák cuŋ wãa “mũa cãw rák cá? prã? phrút pen khon  
 神 それで 言う ~たら 君 ~たい 振る舞う ~になる 人  
 mây sũu sãt sũt cà rit yũu ðaŋ níi kũũ yãa ?aw khwãan thoŋ  
 否定 正直 現在 このように それで 否定 取る 斧 金  
 lêm níi læy thũŋ khwãan lêm [thii tham tòk náam]  
 類別詞 この 決して 及び 斧 類別詞 関係 使役 落ちる 水  
 khãa kũũ cá? mây ñom hã yũu mũan kan”  
 俺 でも 否定 水中で探す あげる ~も

(そうしたら、神様は「君が不正直な振る舞いをしたから、この金の斧をもうあげない。水に落とした斧でも水中で探してあげないよ。)

(txt4)

タイ語の *thii* 関係節は、上の例のように主名詞を限定的に修飾することもあるが、非限定的に修飾する(情報を付加する)こともある。ソムキャット(2000)によれば、タイ語の関係節は、非限定的な関係節の場合、普通 *sŭŋ* が使われるが、その情報(修飾節)が強調されるときには *thii* が使われるという。この場合、修飾節を取り除くと、文法的には間違っていないが、文全体が不自然になると指摘している。本研究でも、*thii* 関係節の非限定的用法が18例みられた。例えば、(70)では、「*kam laŋ tòk cay con tà? laŋ laan yùu kàp thii*」(びっくりしてどうしようもない)の修飾節を取り除くと、話し手の伝えたいこと、つまり、そのとき(肉屋さんはナイフを取ってきつねに向かって歩いて行く)のきつねの状況がわからなくなると考えられる。(71)の例も、「*făw duu dŭay khwaam rá? thúk cay*」(興奮してじっと見ている)の修飾節は、そのときの弟子の状況、つまり、何か起こるかかわからないで見ている弟子たちという状況がよくわかるように表されている。このように、この場合の *thii* 関係節を削除すると、主節に対する情報がなくなると考えられる。確かに、このような文は *thii* の代わりに、*sŭŋ* が使われると不自然になると思われる。

(70) *phŭut sèt khon khăay núa kôo khwáa mŭit thii mii wáy sǎm ràp lêe*  
 言う 完了 肉屋さん ~と 取る ナイフ 関係 ~ために 切る  
*núa sàt phlòo prŭat kh âw maa hǎa mǎa cŭncòok [thii kamlaŋ*  
 肉 食み出す 入る くる 会う きつね 関係 進行  
*tòk cay con tà? laŋ laan yùu kàp thii ]*  
 びっくり ~ほど 面食らう ~まま  
 (肉屋さんは言う、すぐ肉を切るためのナイフを取って、びっくりしてどうしようもないきつねに向かって歩いて行った。)

(txt8)

(71) *thāam klaaŋ sǎay taa khǒŋ lŭuk sŭt [thii fǎw duu dŭay khwaam*  
 ~の中 目の前 ~の 弟子 関係 じっと見ている ~で 興奮  
*rǎ? thúk cay] phrǎ? phík sŭ? bŏo rí? kam khaa thǎa léew kôo krǎ? coon*  
 お坊さん 唱える 呪文 ~てから 飛び込む  
*phŭŋ loŋ náam pay*  
 つんのめる 水 行く  
 (興奮してじっと見ている弟子の前で、お坊さんは呪文を唱えてから、水に飛び込んで行った。)

(txt15)

これらの例は、「情報付加」の中でも「主節に対する情報付加」に分類されるものであるが、以上のような主節で表されている事態に対する情報付加の場合は、益岡(1995)では、



「対比・逆接」「継起」「原因・理由」「付帯状況」などの修飾節と主節の意味的な関係にあるものが存在するとしている。本研究のデータでは、非限定的用法の thii 関係節の 18 例中 13 例が主節に対する情報付加関係節であり、(70)、(71)のような「付帯状況」の関係節は 6 例あった。そして、(72)、(73)のような「原因・理由」の関係節は 7 例あったが、「対比・逆接」「継起」という関係はなかった。

(72) tɛɛ mây ʔaat tãan thaan ɔɔ ráʔ khêe pàa hĩw soo [thii thõom khãw  
しかし 否定 できる 抵抗する ワニ 野生 餓える 関係 襲う  
tham ráay yãŋ baa khlan] dáy  
危める 熱狂的 できる  
(しかし、餓えていて、狂ったように攻撃しにきている野生ワニに抵抗できなかった。)

(txt10)

(73) tɛɛ koo mây mii phũu day sãa mãat càp krãʔ rôok phũak [thii  
しかし 否定 いる 誰でも できる 捕まえる リス 白い 関係  
sɛɛn prãat priaw wõŋ way] dáy  
軽やか 俊足 できる  
(しかし、誰も俊足の白いリスを捕まえられなかった。)

(txt13)

タイ語の thii 関係節は、上の例でみたように、構造的には生産的に使用され、機能的にも限定的に修飾することが多かった(58 例中 40 例、68.97%)が、非限定的に修飾することも少なくない(31.03%)ことがわかった。また、頻度的にもかなり多く使用されること(84 例中 58 例、69.05%)がみられた。

## 6. まとめおよび今後の課題

本研究は、タイ語の物語ナラティブにおいて、各形式の関係節がどのように用いられているかを検討した。「thii 関係節」「sũŋ 関係節」「裸の関係節」について、使用パターンおよびナラティブにおける談話機能を分析した。その結果、各形式はそれぞれ使用パターンと使用機能で使われる傾向にあることがわかった。

1) 「thii 関係節」は、様々な構造(主名詞と修飾節との統語的な関係)、様々な機能(限定的・非限定的)で使用され、つまり、他の関係節化形式に比べると、生産的に使用されることがわかった。さらに、益岡(1995)が述べた、修飾節と主節の意味的な関係の用法もみられたが、「対比・逆接」という関係節と主節の意味的な関係がみられなかった。この場

合は、タイ語と日本語の統語的な相違に関係があるかどうか、今後の課題として検討したい。

2) 「sûŋ 関係節」は、本研究のデータでは主名詞が修飾節との主語の格関係というパターンのみだった。そして、使用機能については、「sûŋ 関係節」は先行研究で述べたことと同様、全て非限定的な用法であるが、ソムキャット(2000)で指摘している主節に対する情報付加という用法は1例しかみられなかった。ただし、本研究のデータはタイ語の物語を利用したものであるが、「sûŋ 関係節」の使用は非常に少なかったため、今後は、コーパスや小説などの大規模データを収集し検討する必要があると考えられる。

3) 「裸の関係節」は、使用パターンについては、先行研究と同様、被修飾名詞は関係節との主語の関係というパターンで使用されていた。談話における使用機能ということは、主には限定的に使用されている傾向があった。しかし、「sûŋ 関係節」と同じように、本研究のデータでは用例が少なく、今後の課題として大規模資料から収集し詳しく分析をしたい。

以上、本研究は、タイ語の物語ナラティブにおける「thîi 関係節」「sûŋ 関係節」「裸の関係節」の使い方の傾向をまとめたが、今後の課題とし、各形式の使用傾向を明らかにするためには、大規模用例を収集し分析を行い、検討したい。

## 資料

*The Structure of Thai Narrative*, Somsong Burusphat, The Summer Institute of Linguistics and The University of Texas at Arlington 1991年

- txt1 The Mother Dog Called Nin(ニンという母犬)(日本語は筆者訳：以下同様)
- txt2 The Story of Srithanonchai(スイタノンチャイ物語)
- txt3 The Lion and the Rat(ライオンとネズミ)
- txt4 The Guardian Angel and the Woodcutter(神様と木こり)
- txt5 The Frogs Choose Their Master(カエルたちが主人を選ぶ)
- txt6 The Fox and the Horse(きつねと馬)
- txt7 Unity(協力)
- txt8 The Foolish Fox(愚かしいきつね)
- txt9 The Magic Pond(魔力の池)

*Nitan Lumnaerm*(河川物語)Kosol Thongdoug, Class Publishing 2005年

- txt10cǝǝrá?khêeyákhèŋwaŋsáammǝ(ワンサームモーのワニ)
- txt11khũm sáphèŋ kùtpòŋ(クットポンの宝庫)
- txt12sùkphràaknaaŋ(プランナーンの争闘)
- txt13pháadeŋnaaŋ?àŋ(パーデーン王とアイ王女)

txt14tamnaanbunrâatchá?nók(ラーチャノック沼沢の物語)

txt15kamnàetbunphrá?aacan(プラーチャーノック沼沢の原始)

txt16cǎrá?khêesāamphan(サームパンのワニ)

## 参考文献

- ソムキヤット、チャウエンキジジワニッシュ(2000) 「日本語・タイ語における「非制限」の連体修飾節」 『国際交流基金バンコク日本語センター紀要』 3, 15-31.
- 高橋清子(2011) 「タイ語の関係節構文」 長谷川信子 (編) 『70年代生成文法再認識：日本研究の地平』 東京：開拓社, 253-257.
- 益岡隆志(1995) 「連体節の表現と主名詞の主題性」 『日本語の主題と取り立て』 くろしお出版, 139-153.
- 松山納(1996) 『タイ語辞典』 大学書林
- 峰岸真琴(2006) 「タイ語の名詞句構造」 『東南アジア大陸諸言語の名詞句構造』 慶應義塾大学言語文化研究所, 89-118.
- Iwasaki & Ingkaphirom (2005) *A Reference Grammar of Thai*, Cambridge University Press, Cambridge
- Kullavanijaya, Pranee. (2006). Noun-modifying clauses. *Controversial Constructions in Thai Grammar: Relative Clause Constructions, and Passive Constructions*, edited by Amara Prasithrathsint. Research Monograph. Bangkok: Chulalongkorn University Press, 7-65.
- Kuno, Susumu and Preeya Wongkhomthong (1981) Relative clauses in Thai. *Studies in Language* 5.2, 195-226.
- Singnoi, Unchalee. (2000) *Nominal Construction in Thai*. Ph.D dissertation. The University of Oregon.
- Yaowapat, Natchanan. (2005). Pronoun Retention in Khmer and Thai Relative Clauses. In Sidwell, Paul, ed. *SEALSXV: Papers from the 15th Meeting of The Southeast Asian Linguistics Society*, Canberra: Pacific Linguistics, 121-132.

